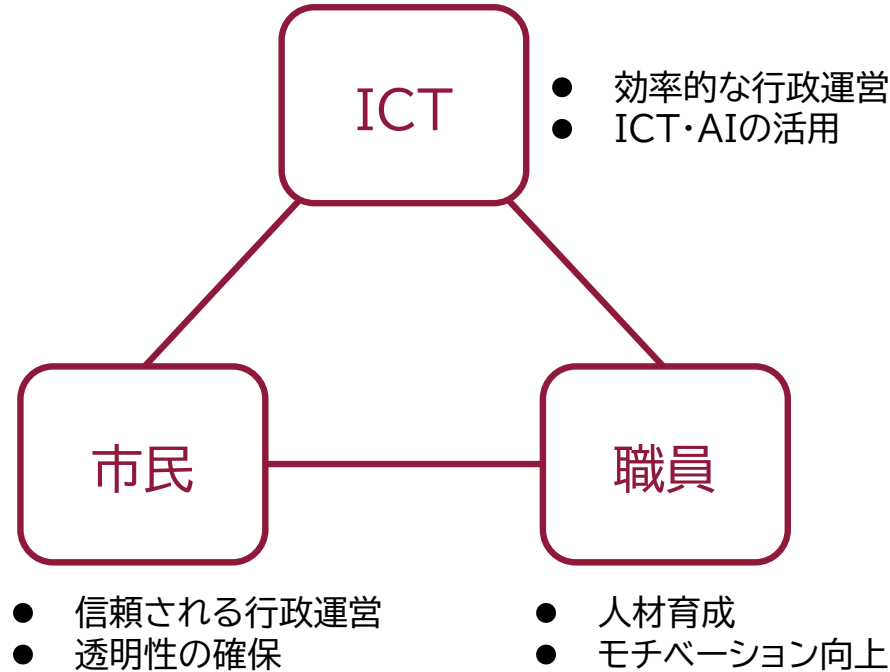


令和8年度 効率的で持続可能な行財政運営に関する研究テーマ

◆候補選定基準:行財政運営指針の基本方針より抜粋

◆研究スケジュール



	事務局	行政改革推進委員会
R8.5	研究テーマ候補提案	研究テーマ決定
	調査・研究	
R8.11	中間報告	フィードバック
	調査・研究	
R9.5	最終報告	提言

令和8年度 効率的で持続可能な行財政運営に関する研究テーマ

- 候補1 行政事務のアウトソーシングに関する研究・事業選定
- 候補2 ^(※)EBPMの推進のための庁内統一の市民アンケートに関する研究・制定
- 候補3 新政策提案制度に関する研究・検証

(※)EBPM:統計データ等の客観的なエビデンスを基に政策を決定・実行すること。

・ 候補1 行政事務のアウトソーシングに関する研究・事業選定

課題

- ① ICTやAI技術の進歩により自治体DXの推進等、業務が高度化する中で、行政課題が多様化している。
- ② 急速な人口減少が進み、将来的な税収減少が見込まれる中で、職員数の削減も求められている。
- ③ 業務が多岐にわたる中、職員の定期的な人事異動により、ノウハウの蓄積や業務の効率化が困難な場合がある。

アウトソーシングのメリット

- ① 制度対応やICTの運用など専門性の高い業務を、専門業者のノウハウ・最新技術で安定的に運営できる。
- ② 専門業者のスケールメリットにより、効率的な人材確保が可能となり、全体コストを下げられる可能性がある。
- ③ 職員を政策立案や住民サービスの向上などのコア業務に注力させることが可能となり、効率的で質の高い行政サービスの推進が実現できる。

・ 候補1 行政事務のアウトソーシングに関する研究・事業選定(参考資料)

職員数の推移

※普通会計(一般行政及び教育)部門の人口1万人あたりの職員数

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2030年	2040年	2050年
人口1万人あたりの職員数	63.06	62.84	63.50	64.89	67.39			
人口(各年1月1日時点および推計)	87,847	87,518	87,090	86,765	86,209	78,412	68,670	58,768

- ・ 人口1万人あたりの職員数は、人口が減少するにつれて増加する傾向があり、将来的に人件費が市の財政を圧迫する可能性がある。
- ・ 人口1万人あたりの職員数の増加を抑えるためには、職員数の削減が必要となる。

アウトソーシングの主な実績

- ① 各施設の指定管理者制度
- ② 臨時給付金のコールセンター・受付・審査業務
- ③ マイナンバーカードの申請受付業務
- ④ イベント開催に係る運営・警備業務

・ 候補2 EBPMの推進のための庁内統一の市民アンケートに関する研究・制定

課題

- ① 市民ニーズや行政課題が多様化する中で、既存のイベントに加えて新たなイベントが増加し、業務を逼迫させている。
- ② 従来の市民福祉向上や啓発を目的としたイベントだけではなく、移住促進やにぎわい創出のイベントが増加し、費用対効果が求められている。
- ③ 予算査定において、縮小や廃止の明確なルールがないため、スクラップが進みにくい。

庁内統一アンケートのメリット

- ① イベント来場者の傾向や満足度を定量的に測定することが可能となり、イベントの縮小や統廃合だけではなく、より効果的なイベント開催が実現できる。
- ② 統一アンケートの制定により、事業担当課の負担を抑制したうえで、予算査定の客観的資料作成が可能となる。
- ③ イベント開催に限らず、行政の各種施策において活用できる可能性がある。

・ 候補2 EBPMの推進のための庁内統一の市民アンケートに関する研究・制定(参考資料)

イベント数の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年
イベント数	74件	77件	97件	118件

※市民を対象とした啓発・イベント事業数

※亀岡市主催、亀岡市が参画する実行委員会主催、関連する関係団体や外郭団体主催イベントの合計

※通年開催のイベントを1件としてカウントしている場合もある

主な過去5年間の新たなイベント

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ① 移動型スマホセミナー | ⑦ アグリフェスタ |
| ② 京都・亀岡バルーンフェスティバル | ⑧ 亀岡ジャズフェスティバル |
| ③ オープンガーデンかめおか | ⑨ 亀岡吹奏楽フェスティバル |
| ④ かめおか環境デー | ⑩ 健康いきいきフェスティバル |
| ⑤ かめおかダンスフェスティバル | ⑪ めぐるひろばプロジェクト |
| ⑥ 亀岡わんわんフェスタ | ⑫ eスポーツ大会『KAMEOKA CUP』 |

・ 候補3 新政策提案制度に関する研究・検証

課題

- ① 市民ニーズや行政課題が多様化する中で、慣例にとらわれない、職員の柔軟な発想が求められている。
- ② 職員のモチベーション、チャレンジ意欲を向上させる仕組みが必要である。
- ③ 平成28年度に開始した政策提案制度(かめおかっていいね！プロジェクト)では、当初は多くの提案があったものの、業務の効率化ではなく、担当課の負担を増やす提案が多く、提案数も年々減少していた。

新たな政策提案制度のメリット

- ① 従来の政策提案制度では、他部署に対する提案を基本としていたが、自部署の業務改善に対するアイデアを提案させることで、実現可能性が高まり、モチベーション向上も期待できる。
- ② 生成AIを活用した新たな政策提案制度についても検討し、より効率的な提案募集を実現させる。

・ 候補3 新政策提案制度に関する研究・検証(参考資料)

提案数の推移

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
職員提案数	213件	110件	102件	9件	19件	10件	14件	24件

※年度ごとに設定した募集テーマに提案された数の合計

※提案を受けた部署は、採用・非採用・実施(検討)済などを回答

※採用した提案は実施に向けた検討、予算要求を行う

実現した主なアイデア

- ① 公共施設などに給水スポット設置
- ② サンガカラーの亀岡市封筒
- ③ ハーフマラソンのゲストスターターに漫画家の秋本治氏を採用
- ④ 麒麟がくる大河ドラマ館開催
- ⑤ 福祉なんでも相談窓口設置
- ⑥ UDフォントを公式フォントに採用
- ⑦ 粗大ごみのオンライン回収申込
- ⑧ ごみ袋の名称を「燃やすしかないごみ袋」、「埋め立てるしかないごみ袋」に変更
- ⑨ 国産木材を使用した職員証ケース
- ⑩ 窓口申請様式の共通化